



会 社 概 要

- 1 商号 株式会社エコループセンター
- 2 本店所在地 東京都港区虎ノ門1-18-1
- 3 代表者 代表取締役社長 岡崎 洋
- 4 取締役及び監査役
 - 取締役 田畑日出男
 - 取締役 古敷谷裕二
 - 取締役 野島康嗣
 - 監査役 安田正秀
- 5 設立 平成16年7月6日
- 6 資本金 7,600万円
- 7 エコループプロジェクトのなりたち

エコループプロジェクトの基本的な考えは、以下のようにNPO環境テクノロジーセンター及び、その前身である環境技術研究会の数年にわたる研究成果をベースとして、組み立てている。

1995年に設立された環境技術研究会は、環境と経済発展との調和の実現、都市システムの複合化の開発、都市における環境インフラモデルの構築を基本コンセプトとして、廃棄物処理システムを核に、都市における環境に配慮したインフラシステムについての自主研究と提言を繰り返し行ってきた。1995年の「複合循環型環境インフラの提案」にはじまり、「国際環境モデル(仮)都市構想の提案」や、「環境リサイクル複合システム研究」などの技術研究を経て、2001年3月の「神奈川県廃棄物処理対策の提案」に至った。

環境に積極的な関心を持つ企業の、主として技術者等の有志が環境技術研究会に参加し、この間、公的機関等からの支援を一切受けることなく、自主研究を行いながらエコループプロジェクトの骨格を構築してきた。

この環境技術研究会は任意団体として設立した当初から、その門戸を幅広く開放し、会の理念に賛同する企業や技術者の参加を、業種等を限定せずに受け入れてきた。その理念と活動は、NPO環境テクノロジーセンターへの発展的に移行し、現在では40社を超える法人会員と100名近くの個人会員が、活発に継続的な活動を実施している。

2001年4月、環境技術研究会は、神奈川県と共に「神奈川県廃棄物総合処理システム構想」を策定した。

2001年6月に設立したNPO環境テクノロジーセンターは、全国への展開を見据え、「100万人リサイクル地域モデル研究」に着手した。

「100万人リサイクル地域モデル研究」は、2001年度中の予備検討を経て、近藤会長の技術指導のもと、2002年4月から2カ年計画（平成14～15年度）で、神奈川県西部地域（5市10町）を検討モデルとしてスタートした。

初年度の「100万人リサイクル地域モデル研究」の結果、超広域のエリアを対象とした廃棄物の性状別処理、処理施設間の機能を補完するための複合設置、及びグリーン物流等を行うことが、廃棄物の適正処理と再資源化、最終処分を限りなくゼロにするために重要であることが明らかになった。とりわけ発電ごみを処理するパワーセンターは、人口100万人を超える規模において経済的にも環境面からも妥当であることが判明した。引き続き、次年度の「100万人リサイクル地域モデル研究」では、初年度の成果を踏まえ、具体的なプロジェクトを想定した事業化の検討を行い、エコループプロジェクトへと移行した。

エコループプロジェクトは、以上のような1995年以降の研究活動成果を具現化する事業プロジェクトであり、株式会社エコループセンターは、この長年の研究に従事してきたNPO環境テクノロジーセンター及び本プロジェクトの理念を熟知した企業を中心に、事業参加を希望する企業を広く募って発足したものである。これらの参加企業は、逼迫した状況にある環境課題の解決と社会コスト削減のための抜本的な方式の見直しの必然性を痛切に感じており、早急に事業化の具体的立ち上げを目指すものである。

以上